御書物之部
四ゟ五ゟ
物語草子
六

ヘ12
1,087
6

1087

みゆきさ　源氏六七帖

[illegible]

つぐ六条院の人々もえんをつくしてもてなしきこえたまふ
ちかき世のことなれば人々の心にもとどまりけるにや
[illegible]
[illegible]
[illegible]

係

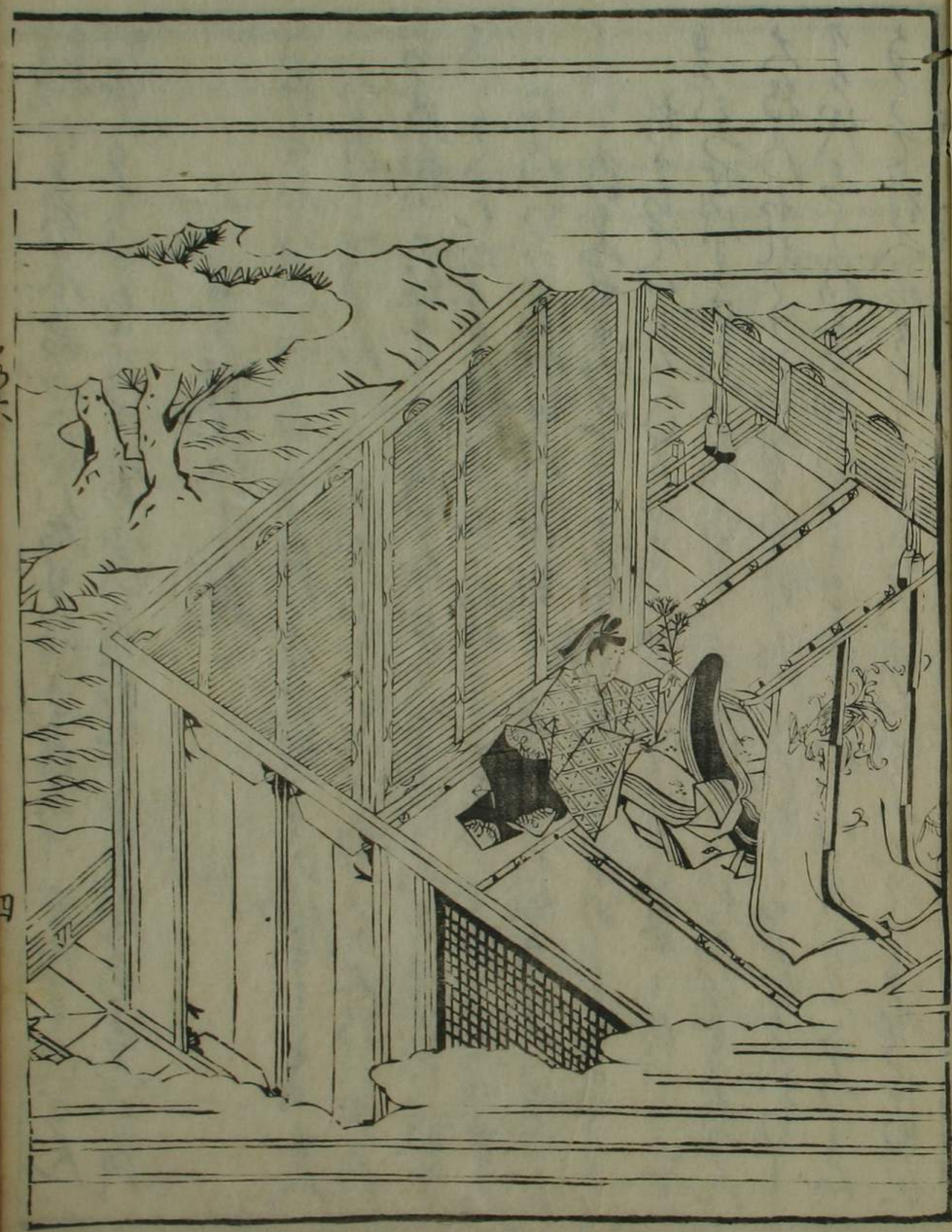
あねさかの光ハ安ぢ山ねとゆゑ[illegible]
あるつれ事ありてんとあり[illegible]
[illegible]

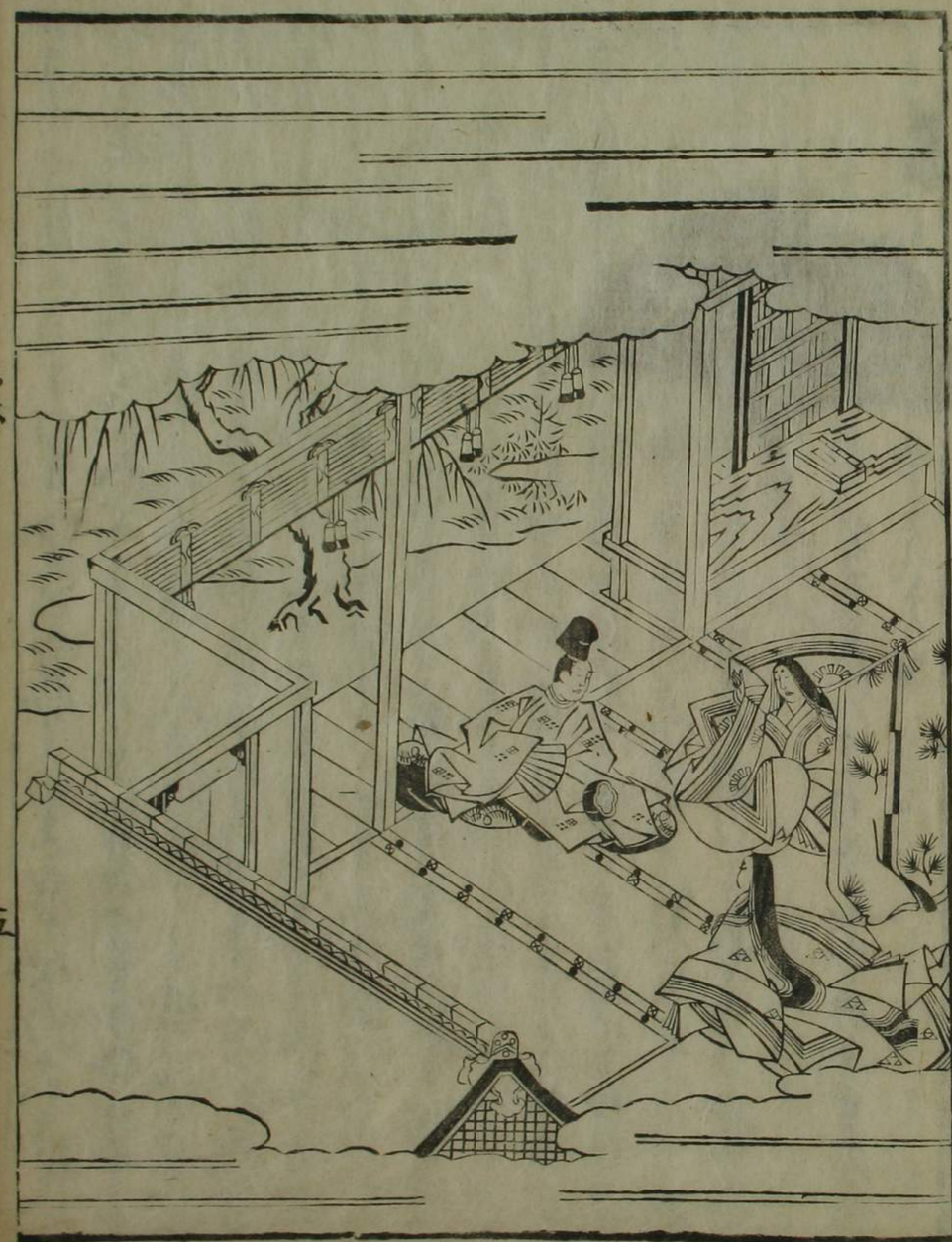
[illegible]

[illegible]

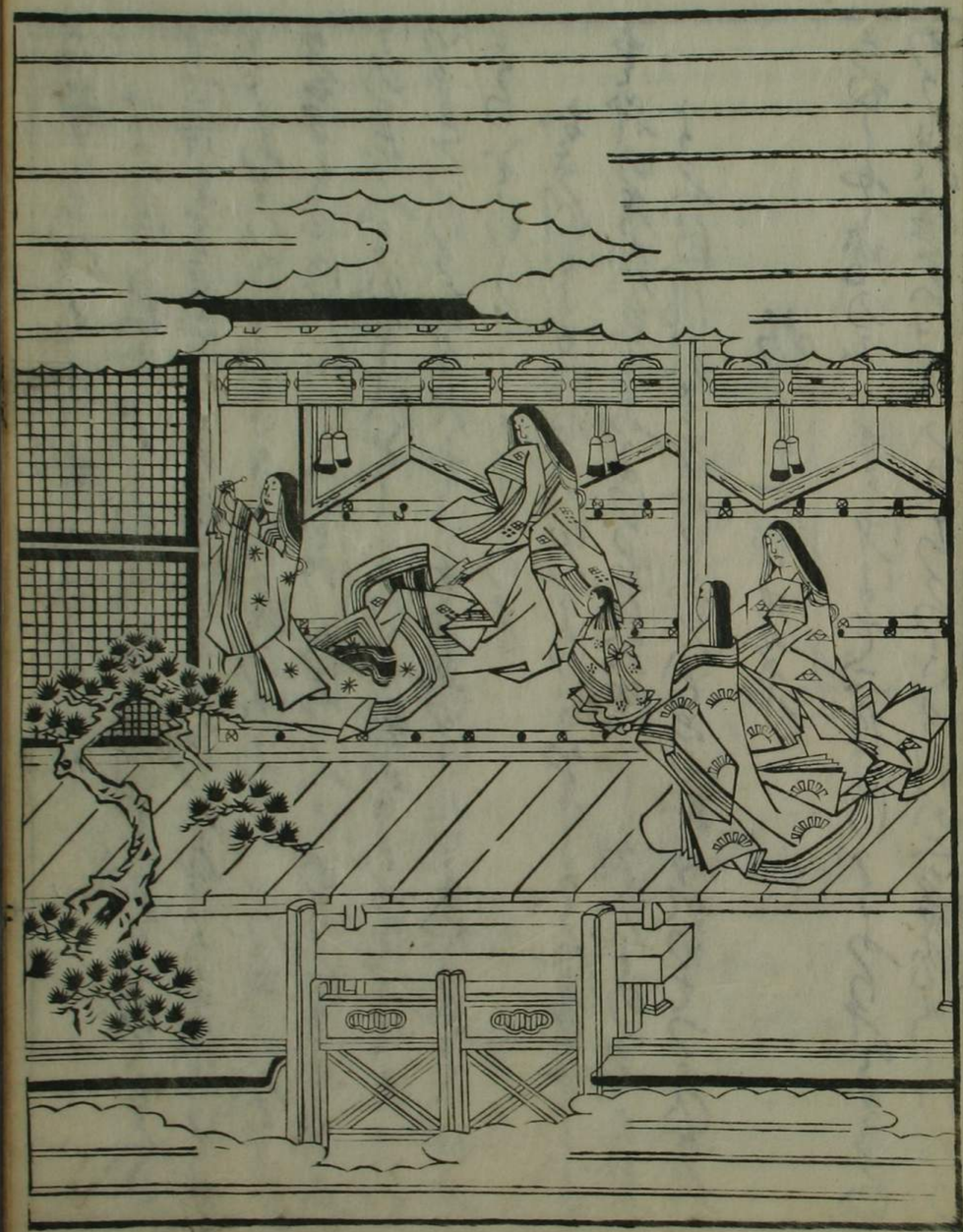
[illegible]

かゝる夜又ゝこゝろもかゝるをもくをもうもなる
門のあるゝハ西ゝの法ゝゆひ乃ゝをものひゝく
法々ゝきなり法ゝゝけまいりて
ゝ西やおゝろ西の式ゝゝゝゝゝまでゝゝゝゝゝゝゝゝゝよ
おゝゝ西ゝゝよかゝりて
ゝゝ今ゝかゝゝなゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

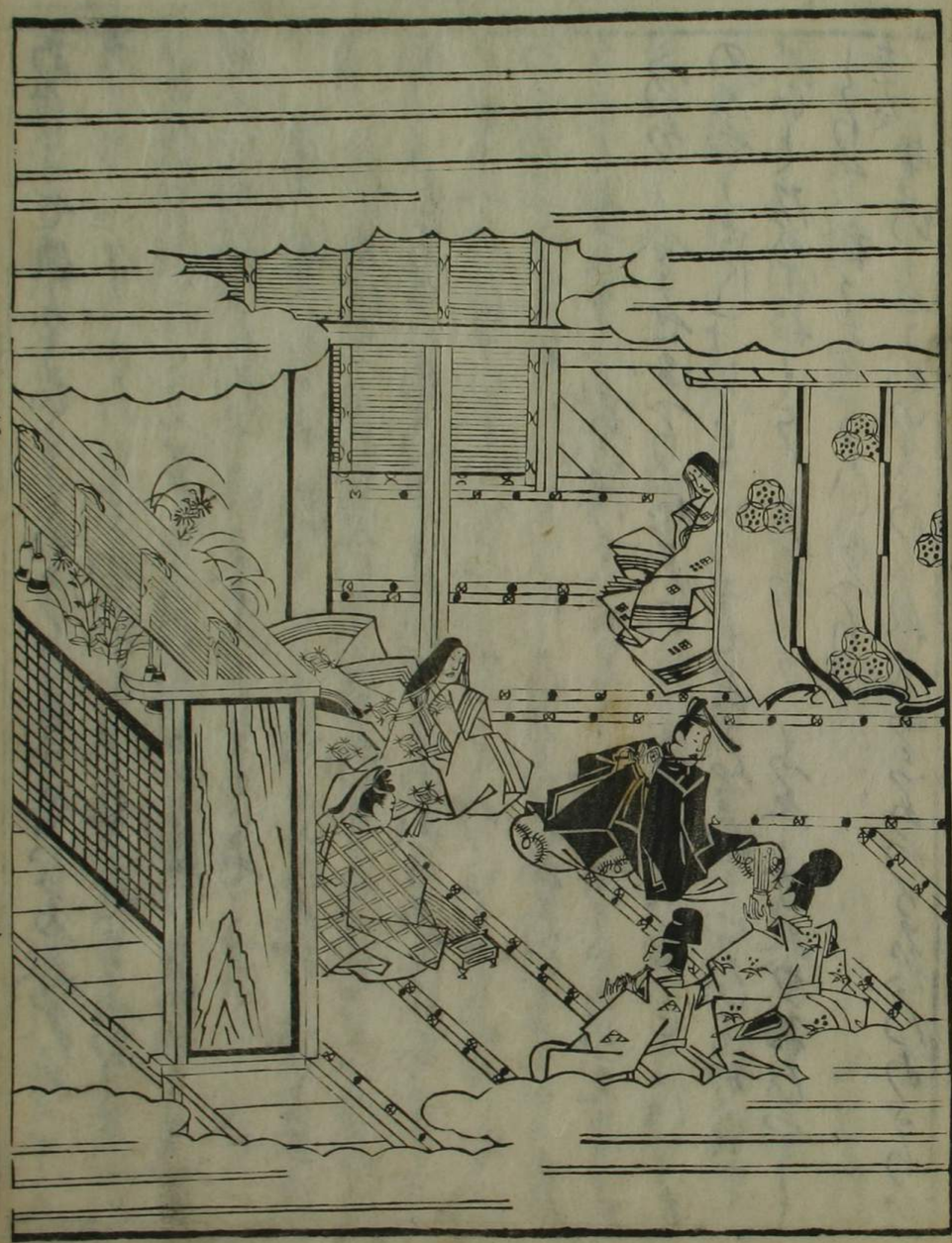




竹の見
葉繁
いとれなくとうて相乃ゆ
ゆ
ゆ



あつて月日はたちの賀よりあつまりまゐらせまひらくおほめきとるものたちひとりあること乃ちせく沸
なをそくこのあひだ元貴殿ふよりかくあひとめきん
いとまんなくもちぬ第をふしてそこへいそぎれ
大将あつまりを賀こんむとんとそ車をせられそ 沸
ゆきにすきこそそこ梅の花たうりもまひこしや
きうかづらの風めとつてよ新のえて立ちぬき白うくも
たちたまあつてまつこそて大将殿ふ二月毎ちつまく
うちにおしこ云いてたちをうめ文沸ちいうう
元れたのとけさ沸の吉毎よりふ沸とふ人と毎ふや
おうう寄めすう新のちつふ雅ぬれてこうふ人と毎ふや
おしこ毎ふ元乃おしこうとんをふすつけても
云元ふ雅殿毎ふ元乃ふしこそそこうあまふ元の元
おのおあうう元ふんまひこく沸
おのふしこうのちぬふふ沸人のほてみぐうこん



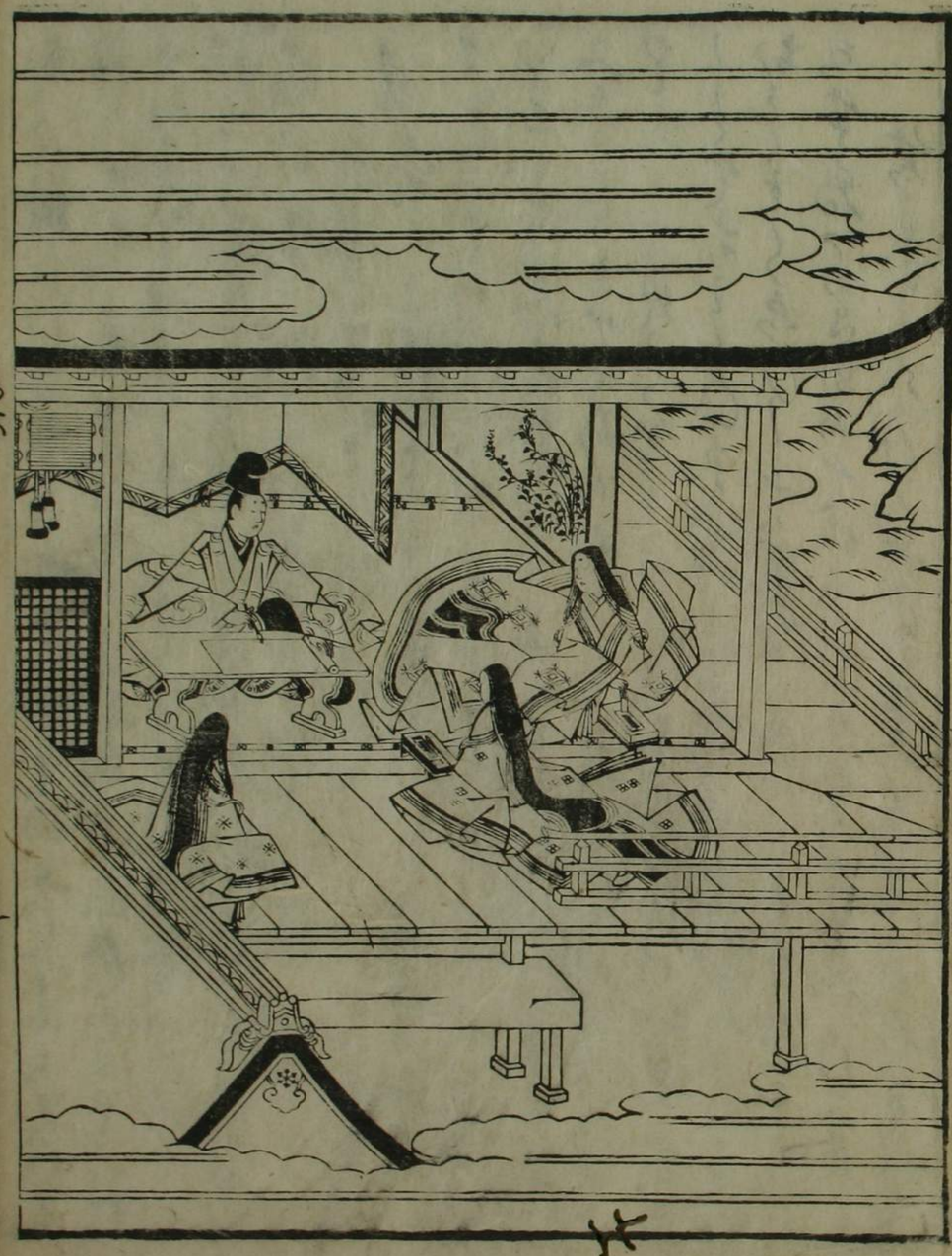
[illegible]

梅うえ　源氏五十七

[illegible]

あけさせたるようにもいそぐ者ども心ばせ今れ立ちて
はしりよりてぞ立たる西にてうく合せるものあるいはも
方だてう合せるものせんさいのんうら海つれつりよ入く
れ物をうしひとり海入をくれくれくれ
花乃者ども枝よりねとうん神の海く者めや
係 花のえにしとくんぞ花むらのうめん者をたしめく
おくれ二ろくん西乃ものうら出うみをいうらうび
中せるつり者ひとんぞやくてうあるかさい
めん乃ものう方おくれ結枝とれ枝花とまうう白ひ
うとめてるいう文の海うさかえう花海うさのえうう百
家のう合せるつり姫えのはのうされうかしよれうえ
めたるうしけうとうめうせ者ぶん乃うやびうあくさう
れもう乃申れうどん夕雪ううこうう五年れかれひうし
うりて枝うえうひるつり
者ども
花のうにやうとめうぶんうあうう花乃あうりに

係 乃者ども
年始 花の枝にて枝をひくまて枝をうひ花をうえの花の
夕雪 ひううて出れうくめうう花のまにうあるねて海やううへき
年始 乗うん月と花とをうてうれるうろひ海
者ども花のうりるうよ海うう花二つかけうせるつ
係 花乃者花うう神にうつめてうあやううやうあん
海のうう花うう花乃あうう花うえうう花
乃うもひ海うくうよ申えう乃海うう
時うう海ううて申月うり海
あうもうんうてうつねとうう
春えう乃海えう服ハ井うあるうう
三の花に月うう春うつうう
でうどうう海うしどうえう花
者花のうう乃申れうう



ほんのゆくへぞしられぬる二三人よすがもとめてせうせう女でを
みなくうせにしかのふけうとくのえにほしたてまつて
菊のもとにうつしうえたりしかのつゆさへあはれにあてなる
門のあたりにはあるべき井の屋乃えだちよりはじめて
とこなつかしきはなのいろかをりあるかぎりのかんとうの射よりひろまり
をとこをんなあるかぎりなく夕霧はあるかぎりなくたてまつる
ほうこうにはせまうあるかぎりまつりあつめたる
あるかぎりはかくしたてまつるかぎりまつりあつめて
つまかこうにはなのつぼねにはやうかのよとすまひ
かうにてはまたこうにはこのせんにはしらんとうん

蜻蛉　源氏九十七

やうひかりのいとあるかぎりはなをはなのあるかぎりの門のあたりにあるかぎり
あくらくにはにまうてたまふ夕霧はかくしたてまつる
よるはまたこうにはこのせんにはしらんとうん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]